

研究テーマ	生徒の学習意欲を高めるための、題材設定の在り方 ～生活の中に生かされている美術を生徒が実感することを目指して～ —第2学年「私だけの花を咲かせよう」の実践を通して—
-------	--

かすみがうら立千代田中学校 教諭

I 研究テーマについて —「美術なんか」—

「受験に関係ないし、どうして美術なんてやるの？」、「美術なんか、将来何の役に立つの？」といった声が授業中にたびたび生徒から聞かれていた。話を聞かず、教科書はもちろんのこと、道具も持つてこない生徒たち。私が教師として微かに培ってきたつもりの経験値が、全く通用しない生徒の実態に、私は毎日翻弄され、絶望していた。美術教育を通して、生涯、美術を愛好する心情と、豊かな感性を養ってほしい。という思いを伝えて、納得できない生徒達だった。保護者も芸術より5教科の学習を重視する方も少なくない。しかし、実際には美術は生活の中に息づいている。生活用品を選ぶ際にも、生徒は自分の美意識や感性を働かせ、取捨選択している。スニーカーを購入する際も、履き心地だけでなく、形、色、デザインを重視して選んでいるかのように、生徒達の持ち物はカラフルだ。だからこそ、美術科の学習で学んだことが、生活の中で生かされていることを生徒に実感して欲しいと考えた。1学年で学んだ素描、色彩や平面構成、レタリング、モダンテクニックなどの基礎的をもとに、2、3学年の学習においては、自分の身の回りのあらゆるものに「美術」の要素が沢山あることに気付くことのできる題材を設定したい。生徒の興味関心や柔軟な発想を生かせる題材に取り組ませることにより、生徒一人一人の個性的な表現能力が發揮され、生徒は満足感や達成感が得られるだろうと考えた。そして作品を通じて他者と交流したり、思いを共有したりする活動を通じて、生徒はさらに、美術で学んだことが実生活に生かされていることを実感できると考え、研究テーマを設定した。

II 研究の実際

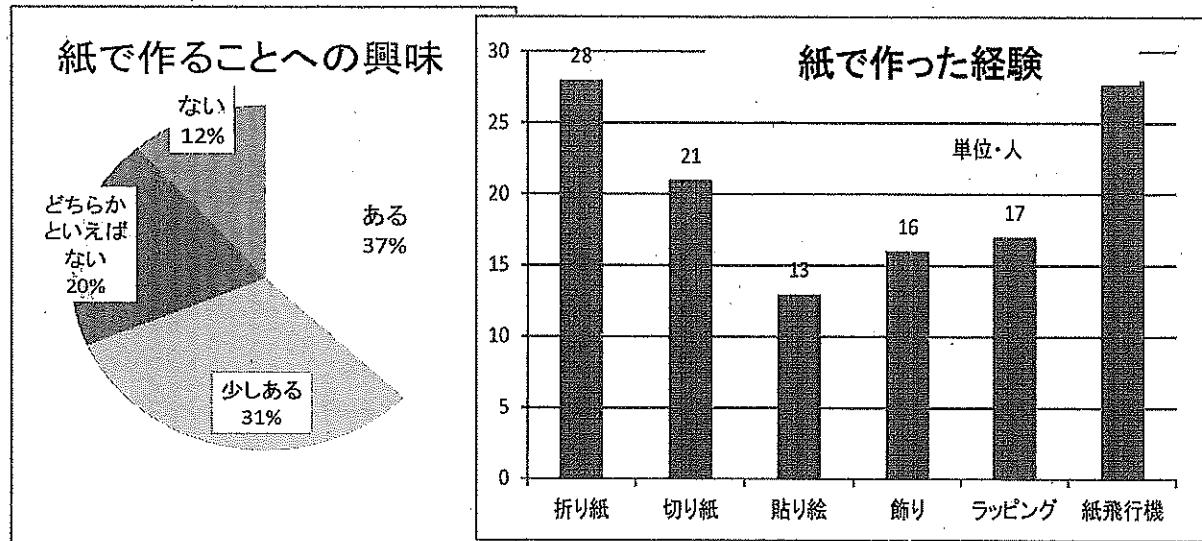
1 題材名 私だけの花を咲かせよう（第2学年）

2 題材の目標

- ・自分の「表したい感じ」を追究し、ペーパーレリーフの制作を楽しむことができる。
(関心・意欲・態度)
- ・自分の発想をもとに、試行錯誤し、創意工夫してすんで制作することができる。
(発想や構想の能力)
- ・レリーフの特徴や表現方法を理解し、紙の特性を生かして、制作をすることができる。
(創造的な技能)
- ・互いの作品の良さを伝え合い、さらに生活の中で生かして、心豊かな生活を目指すことができる。
(鑑賞の能力)

3 題材について

(1) 生徒の実態 (男19名 女18名 計37名)



明るい雰囲気で活発な男子が多い。男女が協力して、用具や作品の準備をすることができる。学習課題に素直に反応し、意欲的に黙々と取り組むことができる生徒が多い一方で、集中力が切れたり、無気力な生徒が見られることもある。積極的に机間指導し、制作につまずきのある生徒に適切に対応したり、創意工夫のある取り組みを賞賛したりして、一人一人が自分の表したい感じを追究しながら、よりよいものを目指して根気よく制作に取り組めるようにしたい。

(2) 題材観

本題材では、紙の特性を生かし、自分の表したい感じになるように、花を半立体で表現するものである。花弁の形状や枚数、背景などを自分のアイデアを生かし、個性的に表現させたい。

(3) 指導観

ペーパークラフトは、紙という身近な材料を使用するため、容易に試行錯誤ができる。十分に試作させ、生徒が自分の表現に自信を持って、意欲的に制作に取り組み、創造する喜びを味わうことができるよう指導したい。また、世界に1つしかない手作りのペーパークラフトの価値を理解し、グループで制作する中で、生徒同士が学び合い、お互いの作品の良さを認め合いながら活動できるようにしたい。さらに、作品を家庭で飾ったり、誰かに贈ったりすることで美術を生活の中に生かす態度を養いたい。

4 指導と評価計画 (6時間扱い)

時	学習内容	評価基準	評価計画			
			開	発	表	鑑
第一次 ②	試作しながらレリーフの構成を検討する。	ペーパーレリーフの制作に興味を持ち、積極的に試作したり、作品の構成について検討したりしている。	○	◎	○	○
第2次	レリーフの制作を	画面の構成を工夫し、紙の特性を生かして、表したい				

③	する。	感じを追究しながら、制作している。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>
第3次	鑑賞	友人の作品から良さを見つけ出し、鑑賞したり、生活に生かそうとしたりしている。	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>
①						

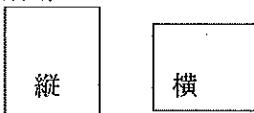
6 指導の実際

(1) 目標

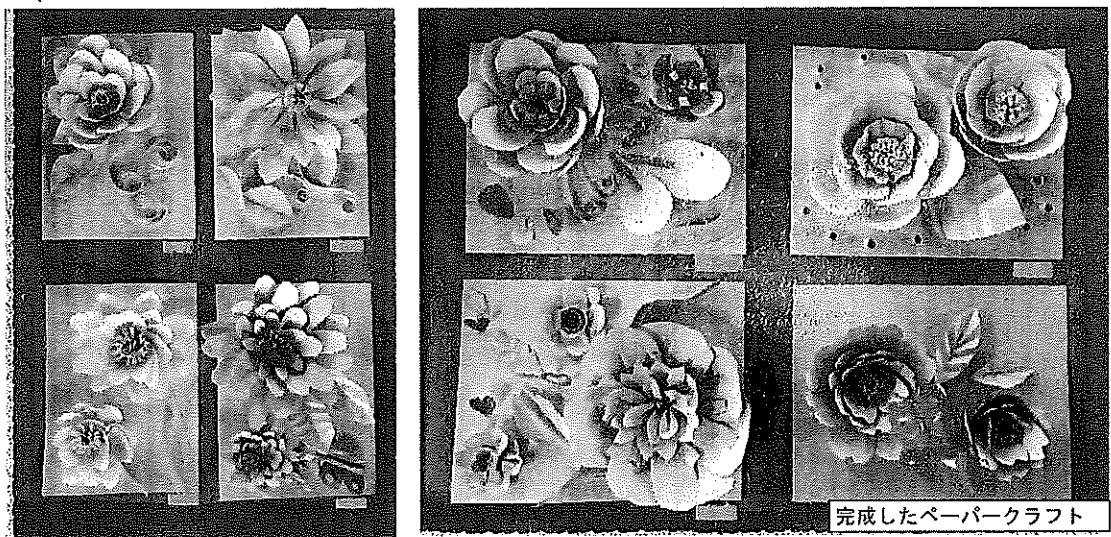
構図や構成を考え、花の形を工夫しながら試作することができる。

(2) 展開

*個に応じた支援

学習活動・内容	形態	指導上の留意点及び評価 (評価は◎)
1 3分間クロッキーを行う。 2 本時の学習課題を知る。 構図や構成を考えながら、自分だけの美しい花になるよう、工夫して試作しよう。	個人 一斉 グループ	<ul style="list-style-type: none"> ・集中して取り組み、学習に取り組む雰囲気をつくる。 ・前時までの試作を振り返り、本時の学習課題を知り、目標を持って活動できるようにする。 ・プロジェクターを活用して、画面構成の基本を確認する。 ・自分の表したい感じを考え、紙の使い方や切り方などを工夫して、さらに個性的な美しい花を制作することを伝え、制作に意欲を持たせたい。 ・グループで制作することで、友達の工夫や良さに気付いたり、教え合ったりすることができるようとする。 <p>*試作が順調な生徒には、画面構成を考えて試作を進めるようにさせる</p> <p>*つまずきのある生徒には、基本を確認させ、どのように表したいかについて、やりとりしながら支援する。</p>
3 制作する。 (構図) 		<ul style="list-style-type: none"> ・接着剤は、1ポイントの量を意識して、はみ出さず適量使用することが、美しい作品に作りにつながることを意識して使用できるように指導する。 ・基本の作り方をもとに、自分のアイデアを加えて、積極的に個性的な作品作りをしている生徒を認め、その良さを、プロジェクターを活用して、他の生徒にも紹介することで、制作意欲をさらに高められるようする。 ・意図に合った形作りが出来るよう、カッティングの方法や折り方、しわの寄せ方など、納得が行くまで試作させたい。 ・机間指導を積極的に行い、生徒と対話して表現意図を確認し、表したい感じになるよう、具体的にアドバイスする。 ・友達の作品の工夫や美しさをから学ぶことができるよう、生徒の作品を提示し、隨時鑑賞し合い、互いに学び合える場を設定する。 ・友達の作品を鑑賞しながら、さらに自分らしい表現を目
4 後かたづけと本時のまとめ	当番	

めをする。	個人	指すことができるような雰囲気作りをする。
・制作カードの記入と回収	個人	・後片付けは当番を中心に、協力して素早くできるよう指導する。
・はさみ	個人	⑤画面構成を考え、自分の表したい感じを追究しながら、積極的に試作をすることができたか。（制作カード）
・接着剤		・本時の活動で、できしたことやわかったことなどを発表させ、本時の活動を振り返りながら次時の活動への意欲を持たせるようにする。
・作品		



III 指導の成果と課題

1 成果

紙は薄く、平らなものという固定概念があり、切る、折る、皺をつくる、しわをつくるなどの行為に、戸惑う生徒も初めは居た。抵抗感を減らすため、基本的な切り方や折り方、接着剤の付け方、立体化の仕方などをワークシートで取り組むことで、生徒が自信を持って制作に取り組むことができた。また、用紙は一人分の大きさを決めて与えたことで、「材料を大切に扱う＝節約する」という意識が自然と生まれた。切る作業で出たゴミのような部分も、最後まで取って置けば、工夫次第で花の一部として生かされることに気付く生徒も居て、限られた状況の中だからこそ、真剣に紙の使い方を工夫したり、美しさを追求したりすることができたようだ。完成したペーパーレリーフは、蓋が透明なケースに収め、家庭に持ち帰って飾りやすいようにした。家庭に持ち帰った作品を、居間に飾って家族で話題になったとか、一緒に暮らす祖母がとても気に入ってくれて、自分の部屋に置いているとか、玄関に飾って、来客にも見てもらっているといった報告が生徒から寄せられた。

2 課題

生徒たちは自分の作品が、日常生活を豊かにしたり、身近な人を喜ばせることができたという実感を得ることができたと思う。今回の制作を生かし、その他の題材でも、家庭に持ち帰った作品の鑑賞を通して、家族が生徒の思いを共有する場を設定していきたい。